

建築 体験

Process Program

イバラキ
クラウド

次なる茨木グランドデザイン

7層の床を貫く“縦の道”がそれぞれ別の目的で来た人をつなぎ縦の道に巻き付くように、各フロアにはオープンスペースや読書スポット、緑あふれるテラスなどが設けられ、“誰もがいつでも自由に”滞在することができる。

新施設は、ホールや会議室だけでなく、図書館や子育て支援、プラネタリウムや市民活動センターなど多様な機能を備えた複合施設。



日時：6月24日（金）15時～

対象：京都芸術大学

芸術学部 環境デザイン学科

～プログラム概要～

時間	プログラム	担当
14時50分～	IBALAB@広場 集合	—
15時00分～	事業全体の説明	市
15時20分～	設計概要等の説明	伊東豊雄建築設計事務所
16時10分～	現場見学	株式会社 竹中工務店
17時15分頃	解散	—



茨木市 都市整備部 都市政策課

tel : 072-620-1660

mail : toshi@city.ibaraki.lg.jp



新施設・広場「つむぐ」開設プレス発表



茨木市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



～ 建築 P 体験 P Report #01 ～

6月24日(金)に、京都芸術大学芸術学部環境デザイン学科の学生5名をお招きし、建築設計の説明と現場見学会を開催しました。最初に、市より、事業全体の構想など、設計に至るまでの考えを、次に伊東豊雄建築設計事務所より、これまでに手掛けた公共建築の事例を踏まえ、設計の思想について、最後に竹中工務店より、現在の現場の進捗状況と施工の工法や現場での工夫したポイントなどを、それぞれの立場から説明しました。学生は、実際の現場を前に、真剣かつ興味深々に、各担当者の説明に聞き入っていました。

設計説明

みんなの
目の
つけ
処

- ✓ 市民も設計プロセスに入れ込み、実験的に芝生のスペースを設け、どんな活動ができるのかを試してみることは、とてもよいことだと思います。
- ✓ 建て替えのコンセプトの段階から市民とも連携して、持続的な公共建築にしようとしている中で、耐震面などの安全性が本当の意味でシンボル性につながる事。
- ✓ 自然エネルギー（SDGS）など、元の敷地のポテンシャルを活かしつつ循環（地域住民の混入）が生まれる。インテリア、建築、ランドスケープどの分野も忘れずにアプローチされていた。
- ✓ 公園をアップデートされた建物が建つと思うと緑も残っていて、皆の憩いの場になりそうな予感がしました。
- ✓ 手摺と階段は、茨木市、竹中工務店、伊東豊雄建築設計事務所の大事にしている部分の違いが現れていたのが印象的でした。



現場見学

みんなの
目の
つけ
処



- ✓ 皆さんが1つの良いモノを作ろうと、1つの方向を向いている事（熱意）を感じてワクワクした。
- ✓ 五感（視覚や聴覚）で、空間の用途を分けるなど、空間の使い方が面白かった。今後発展していく時、新しい空間の使い方ができそう。
- ✓ デザインを実現させるために、用いられたボイドスラブについて、自分自身構造まで考えられていない部分があるので、構造からデザインを考えるために多くの事例を集めようと思う。
- ✓ モックアップでの検討は、サッシの色、ガラス、内側鉄骨の色、スラブみがき回収、それぞれ昼夜おいてみて、できたいいな円柱との兼ね合いを想像して決定しているのが現場で一番設計者としての能力が試されている緊張感が伝わりました。

みんなの
目の
つけ
処

新施設”おにくる”ができればやってみたいことは？

- ✓ 同時多発的な演劇やダンスなど、新しいタイプのパフォーマンスアートが見たい。
- ✓ 野点、ピクニック（東京ピクニッククラブに来てもらう）。
- ✓ 夏のライブコンサートが行われている隣に屋台があって、芝生に座りながら音楽を聞けたらいいなと思っています。後は、何かの楽器体験など。
- ✓ 吹き抜け（縦の通路）を利用した立体的な四季の飾りや、園児の作品の展示などを見たい。吹き抜けを意識して周りのベンチにゆっくり滞在できるような展示が見てみたい。
- ✓ 家具の制作。
- ✓ 子供（子育て支援）空間から見えるライブ、子育て世代では、行きにくいイベントもゆったり参加できる空間になれば素敵だと思う。
- ✓ 以前も行われていたお祭り、花火大会、マルシェ、餃子フェスみたいな〇〇フェス、フリーマーケット、のみの市、市民ギャラリー、古着回収、パソコン教室など市民が無料でできる講座など。



※”みんなの目のつけ処”は、体験プログラム終了後のアンケートより抜粋しました。

建築 体験

Process Program

イバラキ
クラウド

次なる茨木グランドデザイン

新施設は、ホールや会議室だけでなく、図書館や子育て支援、プラネタリウムや市民活動センターなど多様な機能を備えた複合施設。

7層の床を貫く“縦の道”がそれぞれ別の目的で来た人をつなぎ縦の道に巻き付くように、各フロアにはオープンスペースや読書スポット、緑あふれるテラスなどが設けられ、“誰もがいつでも自由に”滞在することができる。



日時：7月26日（火）15時～

対象：立命館大学

理工学部 建築都市デザイン学科

～プログラム概要～



時間	プログラム	担当
14時50分～	IBALAB@広場 集合	—
15時00分～	事業全体の説明	市
15時20分～	設計概要等の説明	伊東豊雄建築設計事務所
16時10分～	現場見学	株式会社 竹中工務店
17時15分頃	解散	—

茨木市 都市整備部 都市政策課

tel : 072-620-1660

mail : toshi@city.ibaraki.lg.jp



新施設「広場@クル」開館プレ事業



次なる
茨木へ。



茨木市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

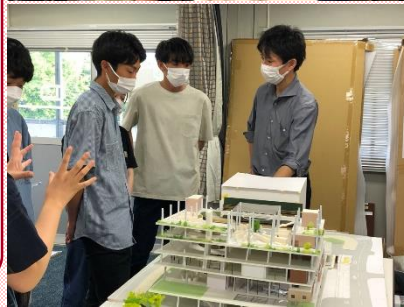
～ 建築 P 体験 P Report #02 ～

7月26日(火)に、立命館大学理工学部建築都市デザイン学科の学生12名をお招きし、建築設計の説明と現場見学会を開催しました。最初に、市より事業全体の構想など、設計に至るまでの考えを、次に伊東豊雄建築設計事務所・竹中工務店の設計担当者より設計の思想について、最後に竹中工務店施工担当者より、現在の現場の進捗状況と施工の工法や現場での工夫した点などを説明しました。授業やワークショップ等で、普段から茨木市に関わる学生も多く、これまでに聞いてきた内容を模型や現場で体感し、完成後の利用を楽しみにしている学生も多かったようです。

設計説明

みんなの目的

- ✓ 何回もワークショップを重ねて計画されたおにクルを実際に見て、迫力がありました。住民の意見を反映した憩いの場や、子育て支援の場など、利用する光景がイメージできて楽しかったです。
- ✓ 立場によって考え方が違うこと、可変性のある計画や考え方がとても面白かったです。
- ✓ 今行っている住民の方々とのコミュニケーションの重要性を改めて感じる事ができました。
- ✓ ワークショップの取り組み方や、実際の現場での行政さん、竹中さん、伊東建築事務所さんの関わり方や生の声を聞くことができて面白く感じました。
- ✓ 作る段階から、ワークショップや子どもたちとの活動をされていた点が、建築士本意のものじゃなく、すばらしいと思った。



現場見学

みんなの目的

- ✓ 建設をしながら、まだ設計を並行して検討していることが多く、様々な関係者が常に議論しながら進めていることを目の前で見る事ができて興味深かったです。
- ✓ モックアップで実物確認を行うなど、完成に向けての規模感に圧倒された1日でした。
- ✓ 現場見学も学課ではなかなかできないことだったので、とても勉強になりました。
- ✓ 現場に足を運んだのも初めてでしたが、組み立てる前にたくさんのサンプルを作っているのを知ることができました。
- ✓ 図面では見えない部分や実物の大きさをモックを作り、一体となって考えているところが印象的でした。
- ✓ 可変的な空間にしたいことに対して、お互いの意見を話し合い、すり合わせを行うことが非常に大切であることを感じました。



みんなの目的

新施設”おにクル”ができればやってみたいことは？

- ✓ 広場の様子をおにクルの上階から眺めながら、ランチやディナーができればいいなと思いました。
- ✓ ピアノサークルが公の場で小コンサートのようなものができると良い。
- ✓ 学生が期間限定などで、お店やイベント、WSなどを行い、市民と学生のつながりの場をつくる。
- ✓ 新たなジャンルの本に触れることが好きなので、フロアのアクティビティに合わせた書架を入れ替えてみる日があっても面白いかと思います。
- ✓ たくさんの本で溢れた場所なので、ぜひ演奏をするスペースとして利用して頂き、本×音楽の空間を実現して下さい!! 上の階まで音が届いて、下に降りていくとどんどん音が近づいて・・・めっちゃウキウキしそうです♪。
- ✓ 広場で夜ビアガーデンのような屋外でお酒を友人と、そしてそこに居合わせた人とも話せるような飲み場があればいいなと思っています。
- ✓ ストリートバスケットのようなここに来てスポーツして遊べる場所が欲しいと考えています。



※”みんなの目的つけ処”は、体験プログラム終了後のアンケートより抜粋しました。